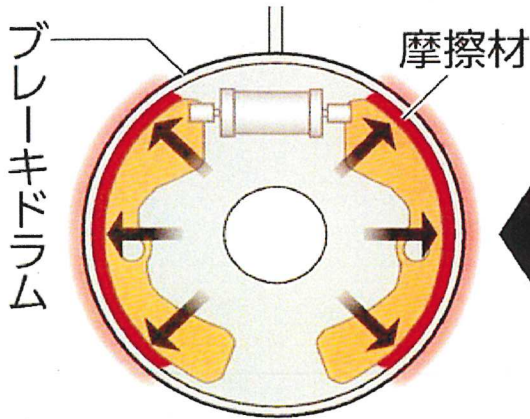
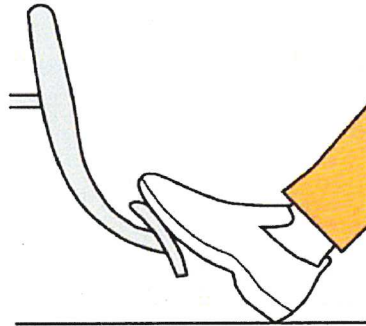


【フェード現象】



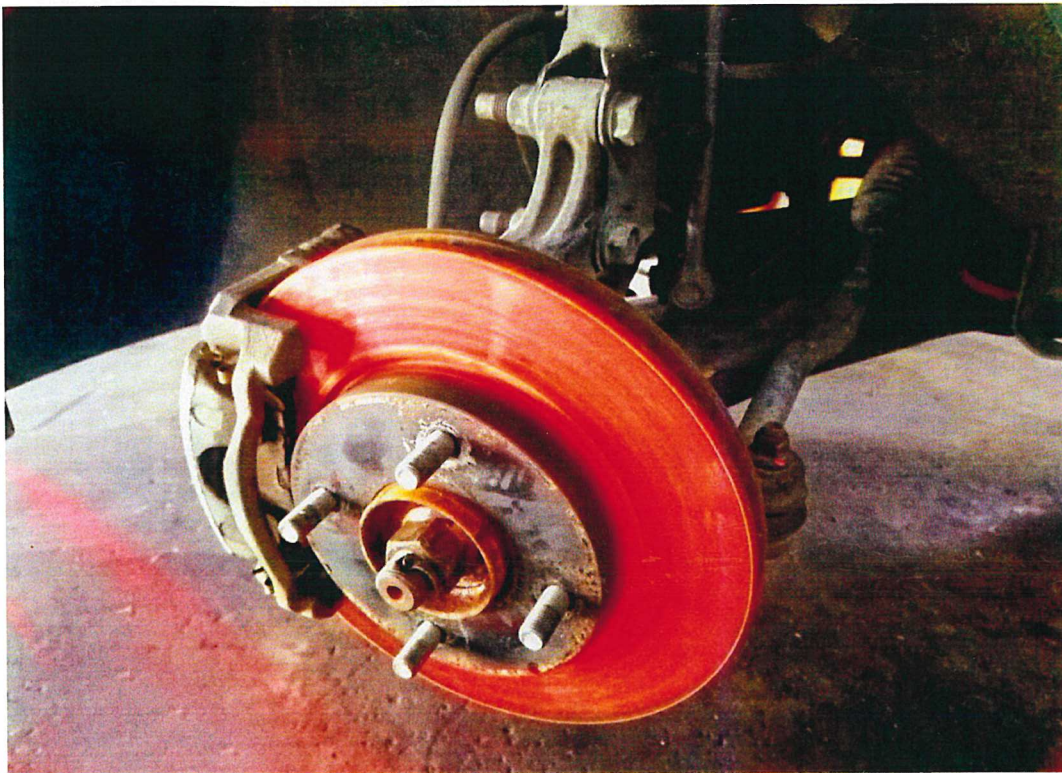
過熱で摩擦材が溶け、
ブレーキドラムが焼ける



フットブレーキを
使いすぎると

フェード現象の仕組み
曙ブレーキ工業のホームページ
と県警への取材から

ディスクブレークが極端に高熱になっている例



【フェード現象を起こさない運転方法】

フェード現象を起こさないためには、フットブレーキの多用を避ける。

その為には、エンジンブレーキを活用することが求められる。
順路を予め確認している中で、長い下り坂になることが分かっているのであれば、**ギアチェンジ**をして**エンジンブレーキ**をかけます。

エンジンブレーキをかける時は、
マニュアル車の場合は、低速ギアにギアチェンジを行い、
オートマ車の場合はシフトレンジを3や2、場合によってはLレンジに入れる。

この状態でアクセルを踏まなければエンジンに燃料が送られないため、エンジンが元の回転数に戻ろうとして、自然に制動力がかかる現象が起こります。

また**ブレーキを踏むのであれば、強く短く踏むこと**でもフェード現象を防ぐことができます。

フットブレーキを緩く長く踏み続けていると、ブレーキが必要以上に発熱するのでフェード現象が起きやすくなるのです。

フェード現象は、ブレーキを多用することでブレーキ自体が加熱してしまい起こります。

ブレーキの使い方や、発熱を抑えることで起こらないようにする事が出来る。

また、アクセルを下り坂で踏まないことも大切なポイントです。

フットブレーキを多用しないためには、そもそも車のスピードを出しすぎないことです。

アクセルを踏みすぎなければ、不必要なブレーキをかける必要も無くなる。
結果として、ブレーキの発熱を抑える事ができる。